

B16

JP7004383U

Publication Title:

No title available

Abstract:

Abstract not available for JP 7004383

(U)

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>

PA05-346
10000006

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-4383

(43) 公開日 平成7年(1995)1月24日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 81/133

21/02

77/02

Z 9145-3E

7191-3E

9340-3E

B 6 5 D 81/ 16

21/ 02

B

B

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 4 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

実願平5-33055

(22) 出願日

平成5年(1993)6月21日

(71) 出願人 393009150

有限会社静岡ディナーサービス

静岡県静岡市中島1169番地の1

(72) 考案者 本 田 良

静岡県静岡市中島1169番地の1 有限会社

静岡ディナーサービス内

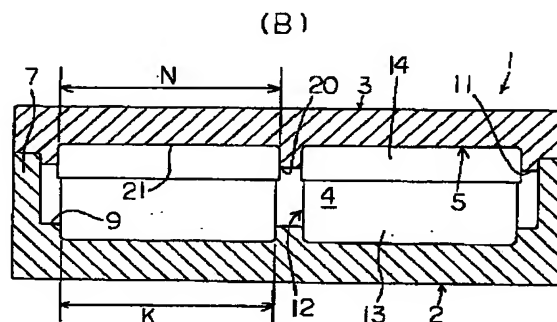
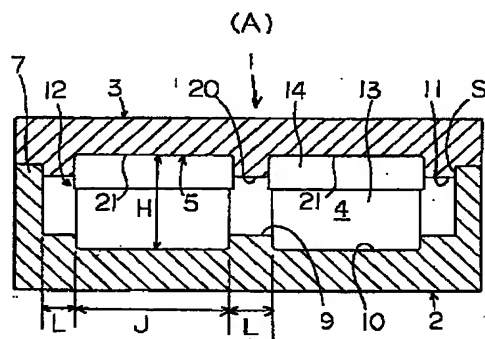
(74) 代理人 弁理士 加藤 静富 (外1名)

(54) 【考案の名称】 容 器

(57) 【要約】

【目的】 物品を収納部の定位置に確実に固定することのできる容器を提供する。

【構成】 容器本体2を発泡スチロール等の断熱材で形成し、収納部4には複数の第一凹部10を設け、蓋3を発泡スチロール等の断熱材で形成し、蓋3を弁当箱12物上部に当接するとともに、蓋3に、外壁7の内周面に接触する環状のリブ11を設けた。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 外壁の内側に物品を収納する収納部を設けた容器本体と、前記収納部の開口部を開閉する蓋とを設けてなる容器において、前記容器本体を発泡スチロール等の断熱材で形成し、前記収納部には物品の下部に当接して該物品を位置決め支持する複数の第一凹部を設け、前記蓋を発泡スチロール等の断熱材で形成し、該蓋を前記物品の上部に当接するとともに、前記蓋に、前記外壁の内周面に接触する環状のリブを設けたことを特徴とする容器。

【請求項 2】 前記蓋のリブの内側を仕切部材により区画することにより、該蓋に前記複数の第一凹部に対応する複数の第二凹部を形成した請求項 1 記載の容器。

【請求項 3】 前記複数の第一凹部同士の間隔を、人の指の太さ以上に設定した請求項 1 または 2 記載の容器。

【請求項 4】 前記環状のリブを発泡スチロール等の断熱材により前記蓋と一体に成形し、該環状のリブがある程度の柔軟性を有する請求項 1 記載の容器。

【請求項 5】 前記物品は、弁当箱である請求項 1～4 のうち、いずれか一の請求項に記載の容器。

【請求項 6】 前記容器本体の下面と前記蓋の上面とに、互いに係合する係合部を設けた請求項 1～5 のうち、いずれか一の請求項に記載の容器。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 (A) は第一実施例の容器であり、蓋を閉じた状態の斜視図、(B) は (A) の蓋を開いた状態の斜視*

2

* 図である。

【図 2】 (A) は図 1 (A) の A-A 線における縦断面図、(B) は (A) の B-B 線における縦断面図である。

【図 3】 (A)、(B) は第二実施例の容器の縦断面図である。

【図 4】 (A) は第三実施例の容器の斜視図、(B) は (A) の D-D 線における縦断面図である。

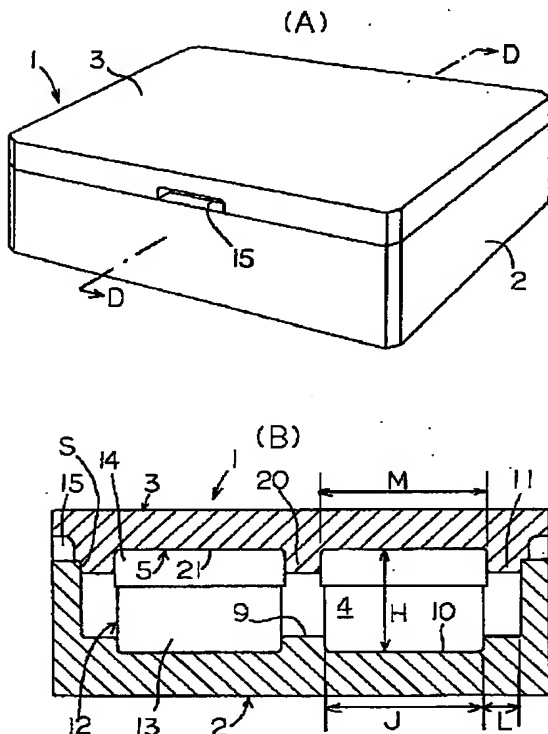
【図 5】 第四実施例の容器を複数積み上げた状態の縦断面図である。

【図 6】 (A)、(B) は第五実施例の容器の縦断面図である。

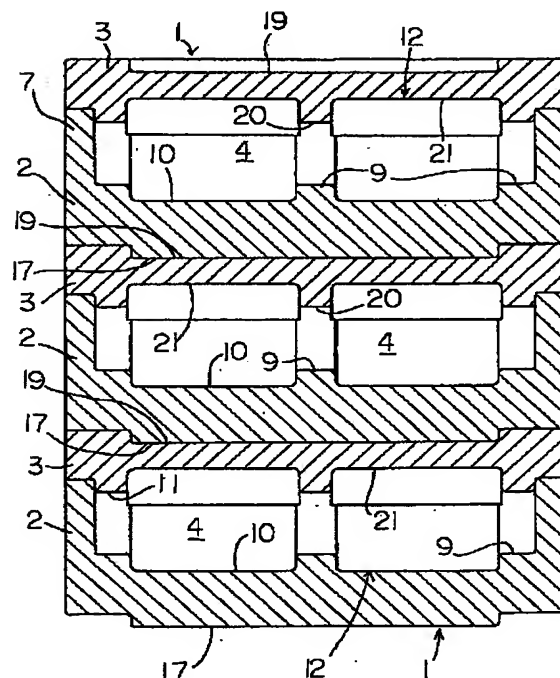
【符号の説明】

- 1 容器
- 2 容器本体
- 3 蓋
- 5 下面
- 4 収納部
- 7 外壁
- 10 第一凹部
- 11 リブ
- 12 弁当箱 (物品)
- 17 凸部 (係合部)
- 19 凹部 (係合部)
- 20 仕切部材
- 21 第二凹部

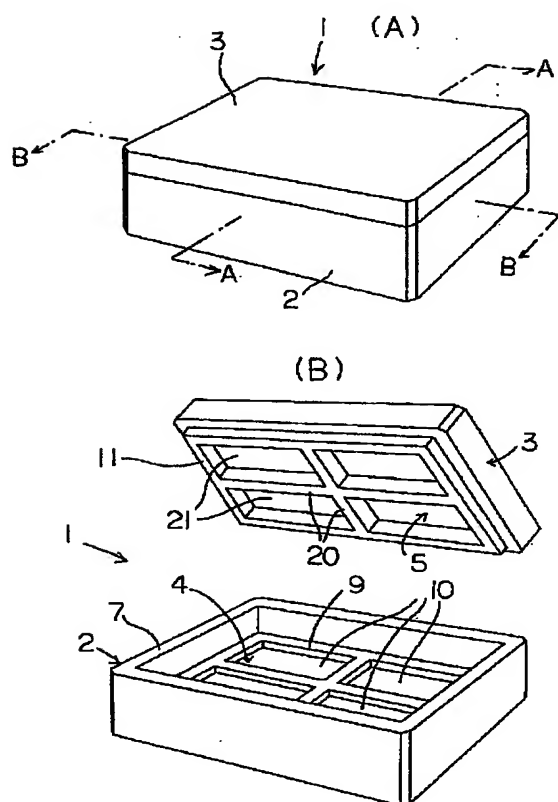
【図 4】



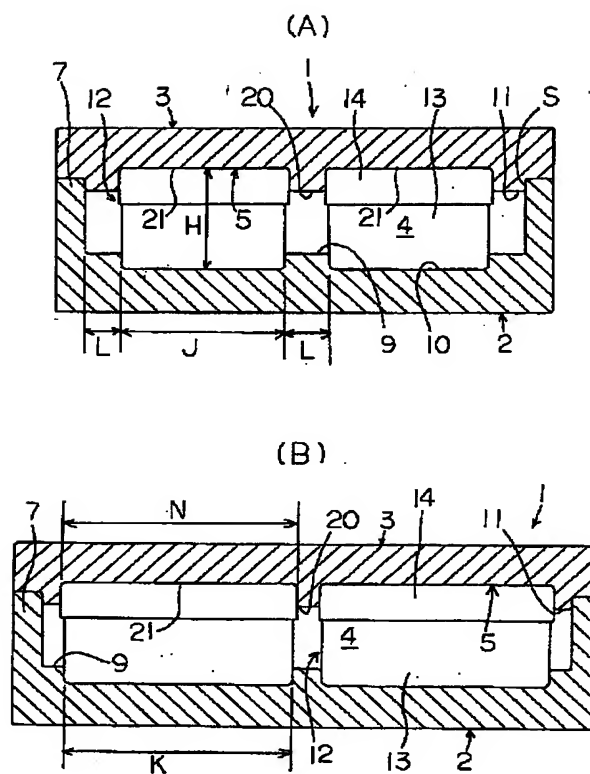
【図 5】



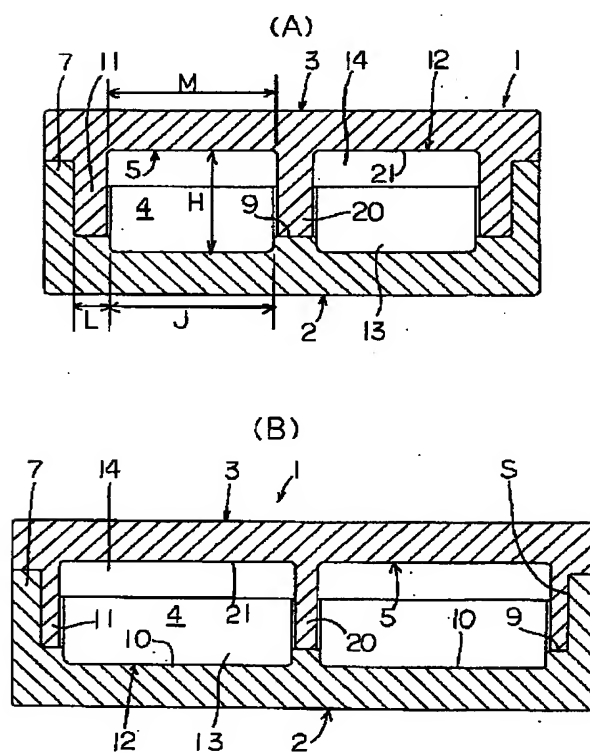
【図1】



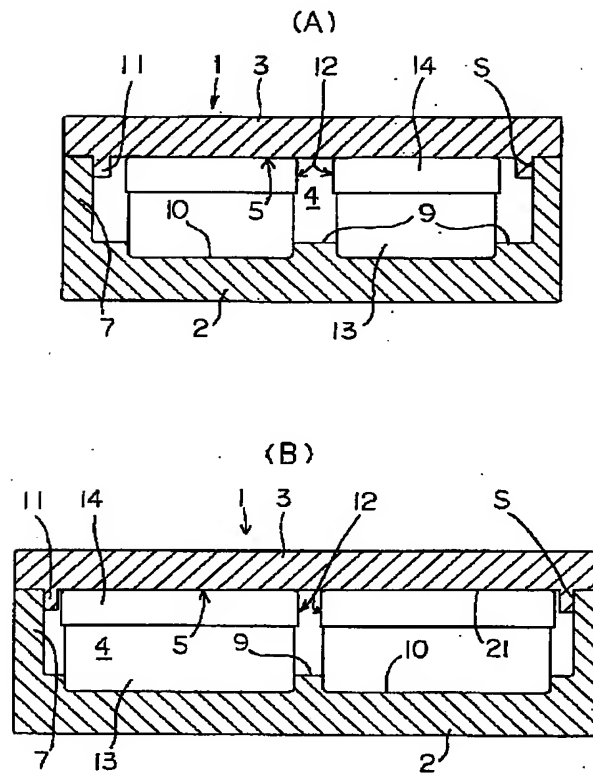
【図2】



【図3】



【図 6】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁶

B 6 5 D 81/38
85/50

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 7501-3E

A 7191-3E

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、例えば仕出し弁当等の物品を収納して輸送、配達する際に用いる容器に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来の容器は、発泡スチロール等の断熱材により成形した容器本体と蓋とを有する。そして、本体内部の収納部に物品を収納してから蓋を閉め、輸送、配達を行う。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

上記従来例では、収納部が物品よりも大きく設計されているため、輸送、配達中の振動によって物品が収納部内で上下方向及び水平方向に移動する。その結果、異音が発生したり、物品と物品との衝突による物品の破損が発生する。

【0004】

本考案は上記課題を解決するためのもので、物品を収納部の定位置に確実に固定することのできる容器を提供することを目的としている。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するため本考案は、外壁の内側に物品を収納する収納部を設けた容器本体と、前記収納部の開口部を開閉する蓋とを設けてなる容器において、

前記容器本体を発泡スチロール等の断熱材で形成し、前記収納部には物品の下部に当接して該物品を位置決め支持する複数の第一凹部を設け、前記蓋を発泡スチロール等の断熱材で形成し、該蓋を前記物品の上部に当接するとともに、前記蓋に、前記外壁の内周面に接触する環状のリブを設けた。

【0006】

また、前記蓋のリブの内側を仕切部材により区画することにより、該蓋に前記複数の第一凹部に対応する複数の第二凹部を形成した。

【0007】

また、前記複数の第一凹部同士の間隔を、人の指の太さ以上に設定した。

【0008】

また、前記環状のリブを発泡スチロール等の断熱材により前記蓋と一体に成形し、該環状のリブがある程度の柔軟性を有する。

【0009】

更に、前記物品は、弁当箱である。

【0010】

更にまた、前記容器本体の下面と前記蓋の上面とに、互いに係合する係合部を設けた。

【0011】

【作用】

本考案は、複数の第一凹部が複数の物品の下部を位置決め保持し、蓋が物品の上部に当接するとともに、外壁の内周面に環状のリブが接触して密封面を形成する。

【0012】

また、複数の第二凹部が複数の物品の上部を保持する。

【0013】

また、複数の第一凹部に保持した複数の物品同士の間には、指の太さ以上の隙間が形成される。

【0014】

更に、環状のリブは外壁の内周面に接触して弾性変形するため、その弾性復元力によってリブと外壁との接触圧力が高まる。

【0015】

更に、複数の第一凹部が複数の弁当箱の下部を位置決め支持する。

【0016】

更にまた、容器を複数積み重ねると、容器本体及び蓋に設けた係合部が互いに係合する。

【0017】

【実施例】**(第一実施例)**

図 1 は一実施例を示し、(A) は容器 1 を閉じた状態の斜視図、(B) は容器 1 を開いた状態の斜視図である。容器 1 は、容器本体 2 と、容器本体 2 の上部に被せる蓋 3 とを有する。

【0018】

容器本体 2 及び蓋 3 は、いずれも発泡スチロール等の断熱材により構成してあるとともに、容器本体 2 及び蓋 3 の平面形状は略同一の方形に成形してある。

【0019】

図 2 (A) は図 1 (A) の A-A 線における縦断面図、図 2 (B) は図 1 (A) の B-B 線における縦断面図である。

【0020】

容器本体 2 の外周には環状の外壁 7 を設けて収納部 4 を形成してあり、この収納部 4 に弁当箱 (物品) 12 を収納する。弁当箱 12 は容器 13 と蓋部材 14 とを有する。

【0021】

収納部 4 の底面には保持部 9 を突出形成してある。底面からの保持部 9 の高さは、底面からの外壁 7 の高さよりも低い。

【0022】

また、保持部 9 は外壁 7 の内側に沿って設けられているとともに、底面の中央の交差部分とを有する。保持部 9 により、収納部 4 内を複数の第一凹部 10 に区分している。第一凹部 10 同士の間隔 L は人の指の太さ以上に設定してある。また、第一凹部 10 の幅 J, K は弁当箱 12 の容器 13 の幅と略同じに設定してある。

【0023】

また、蓋 3 の下面 5 には、外周縁に沿って環状のリブ 11 を設けてある。リブ 11 の高さ方向の突出量は、容器本体 2 と蓋 3 とを閉じた際に保持部 9 との間に隙間が形成される値に設定してある。また、リブ 11 の内側に蓋 3 と一体化仕切部材 20 を設け、第一凹部 10 に対応する複数の第二凹部 21 を形成している。

【0024】

さらに、下面 5 と収納部 4 の底面との間隔 H を弁当箱 1 2 の高さと同様に設定してある。また、第二凹部 2 1 の幅 M, N は、弁当箱 1 2 の蓋部材 1 4 の幅と同様に設定してある。

【0025】

次に、本考案の容器 1 の使用方法を説明する。まず、容器本体 2 と蓋 3 とを開き、食物を詰めた複数の弁当箱 1 2 の容器 1 3 を複数の第一凹部 1 0 に対して個々に収納した後、蓋 3 を閉じる。

【0026】

すると、第一凹部 2 1 が蓋部材 1 4 を位置決め保持するとともに、第一凹部 1 0 容器 1 3 を位置決め保持し、弁当箱 1 2 を収納部 4 に固定する。

【0027】

従って、輸送、配達中に容器 1 が移動しても、弁当箱 1 2 は高さ方向及び水平方向に移動せず、異音は発生しないし、複数の弁当箱 1 2 同士が衝突することはない、その破損を防止できる。また、弁当箱 1 2 内の食物が偏ったり、飛び出したりすることもない。

【0028】

また、断熱材である容器本体 2 と蓋 3 とが弁当箱 1 2 に密着するため、弁当箱 1 2 に対する保温性が向上する。

【0029】

更に、外壁 7 の内周面にリブ 1 1 が接触し、密封面 S を形成する。従って、収納部 4 がほぼ完全に密封され、収納部 4 の保温機能が向上するし、弁当箱 1 2 内の食物の臭いが外部に漏れることがない。

【0030】

更に、環状のリブ 1 1 は外壁 7 の内周面に接触して弾性変形するため、その弾性復元力によってリブ 1 1 と外壁 7 との接触圧力が高まる。従って、保温性及び防臭機能が一層向上する。

【0031】

一方、蓋 3 を開くと、複数の弁当箱 1 2 の容器 1 3 同士の間には間隔 L に対応

する隙間が形成されているから、この隙間に指を挿入して容易に弁当箱 12 を掴むことができ、弁当箱 12 の取り出し作業性が向上する。

【0032】

(第二実施例)

図 3 (A), (B) の実施例は、リブ 11 の突出高さを第一実施例よりも高く設定した。即ち、容器本体 2 と蓋 3 とを閉じた際に、リブ 11 が保持部 9 に接触する高さに設定してある。

【0033】

本実施例では、リブ 11 と外壁 7 との接触面積が広くなって密封面 S の密封面積が広くなるとともに、リブ 11 と保持部 9 とが接触して複数の第一凹部 10 を遮断しているため、第一実施例に比べて複数の第一凹部 10 の保温機能が一層向上する効果がある。その他の構成、作用効果は第一実施例と同様である。

【0034】

(第三実施例)

図 4 (A) は斜視図、図 4 (B) は (A) の D-D 線における縦断面図である。本実施例では、蓋 3 の側面に一对の切り込み 15 を設けている。その他の構成は第一実施例と同様である。

【0035】

本実施例では、蓋 3 を容器本体 2 から外す際に、切り込み 15 に手を差し込むことができるため蓋 3 を掴み易い。従って、蓋 3 を大きな力で持ち上げることができ、開放作業性が向上する。その他の作用効果は第一実施例と同様である。

【0036】

(第四実施例)

図 5 は容器 1 を複数積み上げた状態の縦断面図である。容器本体 2 の下面には凸部 (係合部) 17 を設けてあり、蓋 3 の上面には凹部 (係合部) 19 を設けてある。

【0037】

凸部 17 と凹部 19 とは、容器 1 を複数積み上げた際に対応する位置にある。その他の構成は第一実施例と同様である。

【0038】

本実施例では、容器 1 を複数積み上げると、上方に位置する容器 1 の凸部 17 が下方に位置する容器 1 の凹部 19 と係合することとなる。従って、係合力によって容器 1 同士の水平方向の位置ずれが発生せず、積み上げ状態の安定化を図ることができる。

【0039】

その他の作用効果は第一実施例と同様である。なお、図示しないが、容器本体 2 の下面に凹部を設け、蓋 3 の上面に凸部を設けても同様の作用効果を得られる。

【0040】**(第五実施例)**

図 6 (A), (B) は容器 1 の縦断面図である。蓋 3 の下面 5 のリブ 11 が外周部分だけであり、仕切部材 20 を設けていない。その他の構成は第一実施例と同様である。

【0041】

本実施例では蓋 3 を閉じた際にその下面 5 が蓋部材 14 の上面に接触するだけであるが、蓋部材 14 は容器 13 との係合により水平方向に移動することはない。その他の構成、作用効果は第一実施例と同様である。

【0042】**【考案の効果】**

以上のように本考案は、外壁の内側に物品を収納する収納部を設けた容器本体と、前記収納部の開口部を開閉する蓋とを設けてなる容器において、

前記容器本体を発泡スチロール等の断熱材で形成し、前記収納部には物品の下部に当接して該物品を位置決め支持する複数の第一凹部を設け、前記蓋を発泡スチロール等の断熱材で形成し、該蓋を前記物品の上部に当接するとともに、前記蓋に、前記外壁の内周面に接触する環状のリブを設けた。

【0043】

このため、複数の第一凹部が複数の物品の下部を位置決め保持し、蓋が物品の上部に当接する。従って、物品は上下方向、水平方向のいずれにも移動せず、異

音の発生防止、複数の物品同士の衝突による破損防止を実現できる。

【0044】

また、外壁の内周面に環状のリブが接触して密封面を形成する。従って、収納部がほぼ完全に密封され、収納部の保温機能が向上するし、物品が弁当箱の場合でも食物の臭いが外部に漏れることがない。

【0045】

また本考案は、前記環状のリブを発泡スチロール等の断熱材により前記蓋と一体に成形し、該環状のリブがある程度の柔軟性を有する。このため、環状のリブは外壁の内周面に接触して弾性変形し、その弾性復元力によってリブと外壁との接触圧力が高まる。従って、保温性及び防臭機能が一層向上する。

【0046】

また本考案は、前記蓋のリブの内側を仕切部材により区画することにより、該蓋に前記複数の第一凹部に対応する複数の第二凹部を形成した。このため、物品に対する保持力が一層向上した。

【0047】

また本考案は、前記複数の第一凹部同士の間隔を、人の指の太さ以上に設定したから、複数の物品同士の間には間隔に対応する隙間が形成される。従って、この隙間に指を挿入して容易に物品を掴むことができ、物品の取り出し作業性が向上する。

【0048】

また本考案は、前記容器本体の下面と前記蓋の上面とに、互いに係合する係合部を設けた。このため、容器を複数積み上げると、上方に位置する容器と下方に位置する容器との係合部が互いに係合する。従って、係合力によって容器同士の水平方向の位置ずれが発生せず、積み上げ状態の安定化を図ることができる。